

みんなでトークオーバー 人権こども塾文化祭2024

日 時:2024年11月3日(日)13:00~16:00

場 所:鳴門教育大学 講堂

主 催:鳴門教育大学生徒支援センター・SAG徳島
T-over人権教育研究所・人権こども塾

第1部 人権こども塾「自分を語る」学習発表会

《司会者 ちーさん水族館・みお》

それでは、定刻となりましたので、「みんなでトークオーバー T-over人権こども塾文化祭2024」を開催したいと思います。司会を務めますのは、徳島科学技術高校2年ちーさん水族館と、徳島商業高校1年みおです。(2人声をそろえて)よろしくをお願いします。

《司会者 みお》

第1部は、人権こども塾「自分を語る」学習発表会です。私たち、人権こども塾の生徒は、普段から自分の思いや考えを伝え合う活動をしています。今日は、少しでも中・高生の思いが届けられれば嬉しいです。よろしくをお願いします。また、1人1人の持ち時間が6分ほどとなっておりますので、オーバーしそうになったらこちらのチャイムでお知らせします。

《科学技術高校 ちーさん水族館》

では、早速ですが、ここからは語り合いのお時間とさせていただきます。まず、人権こども塾のここでたった1人の高校2年生としての私が、自分の将来の夢のお話をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。すみません、メモがスマホにありますので、スマホを使いながらお話を始めます。

早速なんですけど、私は今回の文化祭をもちまして、人権こども塾をいったん休塾させて頂くことになっています。理由はですね、大学受験の方がちょっと近いということで、これから研究や論文の用意をしなければならぬので、そのために時間が足りないのです、すみませんが休塾させて頂くということになっています。

今回、こうやって人権こども塾の文化祭ということで、何を話そうかなと思った時に、やっぱりパッと出てきたことというか、私が学んだこと。これが私の元祖なので、今まで私が学んできたことを伝えられたらなということで、今回は話をさせて頂こうと思います。

まず、ボクが人権こども塾で一番印象に残っている活動は、人形浄瑠璃じゃない、「阿波木偶箱まわし」の資料館に行かせていただいた時のことで、私たち人権こども塾の活動は、いろいろな人権課題を抱えた場所であったりとか、いろいろな歴史を持つ場所などに行かせていただいたりとか、原爆の研究をされている方にお話を伺いに行ったりというような形で、様々な場所を体験させていただくという活動をしています。

私は、「阿波木偶箱まわし」の所で、文化の衰退というものを勉強しまして、「阿波木偶箱まわし」がどういう歴史文化がありますかという、簡単に言うと、箱まわしという、人形を使ったお正月の文化があるんですよ。えびすさんの人形を持って家々を回り、玄関の所で、その家の1年の幸せを届けてくれるという、そんなものなんですけれども、それが、部落差別などがあることにより、衰退してしまいました。届ける人も人形もなくなってしまったということで、ボクの人権学習が始まったんじゃないかなと思っていて。

現在に於いても文化というのは大事なことで、今、音楽であったり美術であったり、いろいろな文化があ

と思うんです。が、その文化も差別でなくなってしまうかもしれない。人間の考え方一つで変わってってしまうのかもしれないというのが心に残っていて。

私の将来の夢は、この、今日の名前にもしている通り、水族館をつくるというのが夢で。理由は、自分が不登校の頃に、水族館があったおかげで生きる希望をくれた。これから頑張っていこうと思えたのが、水族館のおかげだからというところなんです。

水族館だって1つの文化なわけです。1つの伝える場所なんですね。水族館って、ちょっと勘違いされがちなんですけど、教育現場なんです。例えば、博物館なんかと一緒に。いろんなものを学んでもらう場所なんですね。じゃあ、どうやって学んでもらうか。皆さん、水族館のイメージって、イルカショーであったり、いろんな生き物を見る場所だと思うんですが、その水族館では、生き物と触れ合う場なんです。

生き物と触れ合うことで、海を学んでもらう。海を学んでもらうことが、いろんな学びにつながる。例えば、海にも現在いろんな問題であったり課題がありますね。漁業者の不足であったりとか、海洋汚染であったり、海洋プラスチックの問題であったりというようないろんな課題があります。それに気づいてもらう、感じてもらうっていうのが、1つの大きな役割なんですね。そんな中で、ボクは思ったんです。「あ、これって今までやってきた人権学習と近いんじゃない」と。

だから、ボクは今まで、例えば「阿波木偶箱まわし」であったりとか、いろんなことを人権こども塾の方で体験してきました。いろんなものを見て聞いて学んできました。その経験は、ボクにとってすごく大きくて。

じゃあ、水族館も一緒に、いろんなものを見せて、いろんな魚を見せて、体感してもらって、それがまた明日を生きる糧になっていく。それってすごい良いことだと思うんですよ。

だから、ボクの将来の夢っていうのは、「水族館をつくる」ことなんです。飼育員になることじゃなくて。水族館をつくることで、誰かの明日をつくれるような人になりたい。だから、ボクの将来の夢は、水族館をつくるし、申し訳ないんだけど、ボクは一旦こども塾を休塾させて頂くような形になっています。

ボクが作りたい水族館像っていうのが、まあ、大きくあるんですが、「ボクが助けてもらったような水族館を作りたい」というものです。ボクが不登校の頃に、すごく思いつめて、もう本当に自分なんかどうでもいいでしょうみたいな、「明日死んでも何も変わらんわ」みたいなことを考えていた時に、水族館に出会って、生き物の命ってこんなにでかいんだ。生き物の命ってこんなにすごいんだ。

でも、ボクの命と、この魚の命って、たぶん一緒なんだ。だったら、ボクの命だってすごいだろう。たかがその辺に生きている命だけど、なんかできるんじゃないの。そんな形で、命の重さを伝えてもらったのがボクの中での水族館です。

ボクもそんな場所を作りたくないというのがあって、誰かの支えになったり、これからの未来をつくれる水族館っていうのを目指していますっていうところで、頑張っていきますというお話でした。これでボクのお話は一旦終了としまして、ここからは…。(会場から拍手に、笑顔で)ありがとうございます。では、私の愛しの後輩たちに回していこうと思います。では、(隣の司会者に、発言を促す)

《徳島商業高校 みお》

徳島商業高校1年のみおです。さっき、先輩から夢のお話があったんですが、私の今回のテーマは、自分の将来の夢と出会いについてお話させて頂ければなと思っています。私の将来の夢は中学校の教員になることです。この夢を持つきっかけになったのは、自分の周りにいた先生たちに憧れたっていうのも一つなんですけど、助けてくれたことが一番にきっかけだなと思っています。

自分は、小学校の時にいじめとか、すごく嫌な思いをしたことがあって、中学校でも少し続いていたんですけど、陰口を言われたりとかもあって、学校を一度嫌いになったことがあって、なかなか行きづらい

状況が続いたことがありました。そんな中で、私に寄り添って、どうなったら行きやすくなるかをいろいろ考えてくれたのが学校の先生たちで、その姿にとても感動したというか、「こんな私でも、助けてくれる人がいるんだ」っていうことを知って、とてもいい先生たちに巡り会えて、「私もこんな人になりたい」と思ったのが一つのきっかけなんです。

それも一つの出会いだと思っていて、その先生たちに出会わなければ、私はこんな夢を抱かなかつたし、そのまま学校を嫌いになって、不登校になってしまっていたかもしれないなって、今となっては思うんです。

もう一つ、自分の中では、すごくいい出会いとかきっかけになったのが、このこども塾に入ったことで、私は今年からこのこども塾に入塾したんですけど、去年は、「人権を語り合う中学生交流集会2023+」の方に参加させていただいて、それも一つのご縁で、友達からの誘いでたまたま行っただけで、すごく楽しくて、いい先生たちにも巡り会えて、自分の夢のビジョンに一つ追加されたことがあったんです。

たくさん学んでいく中で、学校で学ばないような人権学習ができて、これを知らない子が学校にはたくさんいて、おかしいなと思ったこともあるんですけど、それを自分が教員になってから、たくさん子どもたちに語り継いでいけるような教員になりたいなっていう思いがあります。

このこども塾でたくさんのことを学んで、宿題とか作文とかでも発信したりして、これから先、教員になった時にも、こういう自分の経験が、自分の教え子たちに発信できるような教員になりたいなっていう思いがあります。

この人権を学んでいく中で、たくさんのお出会いがあって、それも一つ一つ自分の宝物だと思っています。自分のビジョンが追加されていくことで、とてもいい経験ができていって思われています。なので、私もこれから先輩みたいに、自分の夢を一生懸命追いかけられるような人になりたいなと思っています。ありがとうございました。

《司会者 ちーさん水族館》

こんな感じで、人権文化祭は進んでいきます。みんなが自分の話や自分の経験した思いなんかを話しながら、そしてまた、会話しながら、体験しながら学び合うというのが一つの活動です。ボクたち結構、会話すること、対話すること、話し合っただけで学ぶべきところで話すっていうところも大事にしていたりしています。次の人いきましょか。お話をお願いします。

《八万中学校 かな》

私は、中学校1年生の時から人権こども塾に参加してきて、たくさんのお話を学んできたんですけど、その中で一番印象に残っているのは、「LGBTQ+」のことです。学んできたけど、それでもやっぱり今までは、ちょっと自分とは離れた遠い存在に思うことがあって、その中で、それを身近に感じたきっかけの出来事があったので、今回はそれをお話ししたいと思います。

2年くらい前の話になるんですけど、友達と恋愛についての話をしていた時に、「恋人ができた」と友達から言われたことがあって、その時に私は、「彼氏？」って聞いたんですけど、その子は、「いや、違う。女の子」って言う。その友達とは小学校の時から仲で、ずっと、恋バナをする時も異性の話だったので、急に同性の話をされてびっくりしたっていうのがあって。

私は、別にそこに否定的な考えを持つことはなかったんですけど、でも最初に「彼氏？」って聞いてしまったのが、今でも自分の心残りがあって。それで、その女の子も「彼氏？」って聞かれて、「女の子」って答えるのにはすごく勇気があることだったと思うんですけど、それを私に話してくれたっていうことがすごく嬉しくて。

それで、「その女の子はどんな子？」とか聞いたりするのが、これまでの恋バナの話をすると特に変わりがなくて、ただただ「こういうところが好き」とか、そういう楽しい話が出てきて、この出来事を思い出して

て、また「LGBTQ+」のことを学んだ時に、身近に感じるのって、やっぱり自分が体験しないとなかなかできないことだと思うので、たとえ距離の近い仲のいい友達だったとしても、知らないことってたくさんあると思うので、いろんな人といっぱい会話して行って、みんなの心の中とかを聞かせてもらいたいし、私も打ち明けられることはみんなにどんどん話していきたいし。

この人権こども塾でも、普通に生きているだけだったら、なかなかない出会いとかもあると思うので、実際、この3年間、いろいろな人といっぱい出会ってきて、いろいろなことを話して、楽しい思い出とかもいっぱいくれたので、これからも、この人権こども塾でいろんなことを学びたいし、「LGBTQ+」についても、2年前の自分より、もっと配慮ができるような、もっとより添えられるような人になりたいなと思いました。ありがとうございました。

《八万中学校 あすか》

今までも、学校とかでも人権学習というのはあると思うんですよ。例えば私の学校だったら、一昨日、「人権参観授業」というものがあったり、学年の中で、「学年全体人権学習」とか、そういうものがあるんですけど、学年全体人権学習は、やる前に何かしらを問われるんです。問いがあって、それについてみんなで話し合っていくっていうものなんですけど、その問いの中に、「今までの人権学習で、あなたは人権学習を人に伝えるっていう時に、どんなふうに伝える？」という問いがあったんですね。

その中で、とある子が「私は、人権学習を通して人と関わるのが好きになれた」というふうに話していて、それに、「だから私は、人権学習っていうのは、人が好きになれる、人と関わるのが好きになれる学習だ」と言っていたんですね。それに、私は滅茶滅茶共感して、思わず手を挙げて「私もそうなんですけど」というふうに言ってしまったんです。

私も、人と関わるのが人権学習を通して好きになれたなあと思っていて。こういうふうなイベントだったり、こども塾はフィールドワークだったり、いろんな人を呼んだりして、その話題に基づいて、思ったことを話し合っていくっていう、語り合っていくっていう感じなんですけど。

そういう語り合いとか、「人権を語り合う中学生交流集会」というものがありまして、その会をつくったりして、私たちが人権について話し合って、お互いの距離を深め合っていくみたいなことで、私自身も人と関わるのが好きになっていったなあと思っていて。本当に小っちゃい子とか、私が小学生の時とかは、学校で算数の授業とかで、「3+2は？」みたいなことを言われて、みんなが手を挙げて、「5」とか言うと思うんですけど、そういうのにも手を挙げれんくらい、昔は滅茶滅茶私は人見知りだった。

自分の意見を言うことが昔は滅茶滅茶怖くて、「人と違ったらどうしよう」とって考えるような子だったので、あまり昔は自分の意見を言うことがなくて、人に流されるように生きてて。

今もある程度は流されて生きていますけれど、人に流されるように生きてて。中学校に入っても、中学1年の頃とかはわりと流されているような自分だったなあと思うので、なんか、ちょっと変えてみたいなあとか、そういうのもあって、友達とか先生に誘われてこの人権こども塾に入ったんですけど。

それで、話し合ったり語り合ったりしてきたんですけど、わりと本音を話せるような友達ができたのかなと思っていて。自分の意見を言っても否定されんっていうのが、結構いいなあと思っていて、今もこの塾にいるんですけど。

否定されんっていうことは、自分の意見をこういうふうに思いのままに話せるっていうことで、自分のことも尊重してくれるし、それと同時に、自分が尊重されるっていうことは、相手も尊重してあげんとフェアじゃないとか、平等じゃないよねっていうことで、相手のことも考えられるようになって、そういうことで、協力って面白いなって思えるようになって、それで人と関わるのが好きになれたなあ、私は思います。終わります。

《松茂中学校 あーちゃん》

松茂中学校のあーちゃんです。私は、先生に誘われてこの人権こども塾に入ったんですけど、今までは自分で意見を言ったりするのが苦手で、周りの人からどう思われているだろうかとか、そういうのをすごく気にする人でした。

でも、この塾に入って、いろんな人がしっかりと自分の意見を語っていて、自分もそうならないといけないなと思って、自分の意見をはっきりと言えるように頑張りました。今もちょっと緊張するんですけど、自信をもって語れるように頑張っています。

この前、学校で進路のことについてクラスで語り合いをしたんですけど、その時に、目標をもって受験勉強をしている人がたくさんいて、本当にすごいなと思いました。

私には、将来の夢とかがあって、自分なりに頑張っているつもりなんですけど、なかなかテストの点数が上がらなかつたりするので、本当にこのままで高校に行けるんだろうとか、考えてしまいます。

だけど、この人権こども塾の吉成先生が「勉強のやる気スイッチは人権学習にある」っていうことをおっしゃっていて、ここでしっかり人権学習に取り組んでいたら、勉強を自分からやってみようっていう気になれた気がします。

だからこれからも、高校生になるので忙しくなるとは思いますが、この人権こども塾に参加して、人前で自分の意見を語ってほしいなと思いました。ありがとうございました。

《松茂中学校 あいちゃん》

私は松茂中学校の、あだ名は「あいちゃん」と言います。最近、自分のクラスの印象が悪くなっていると感じました。私たちのクラスは長所で言うと、とても賑やかでいいクラスなんですけど、短所で言うと、とても騒がしくてうるさいです。もう受験生なのに、授業中の時もしゃべったりして、いつもうざいですし、同じクラスとして、ちょっとどうかと思います。

森口先生が総合や道徳の時に、受験についてとても詳しく教えてくれて、私は勉強になるし、昔の事件についてのことも詳しく知れたりして、「ああ、こんな事件もあったんだな」とそれることもできるんですけど、一部では真面目に聞いている人も少なく、発表の時とかでも笑っている人もいますので、受験生でたまに先生とかに怒られたり、注意していることもあります。

黒板の目標では、「授業中、騒がしくしない」という、小学校でもいけるようなことが、私たちのクラスでは書かれていて、受験生なのにこんな人もいるのかなと思って、ちょっと恥ずかしいです。なので、人権についても、もっと詳しく知って欲しいし、2週間後になったら基礎学力テストの第2回目があるので、もっときちんとしてほしいと思います。ありがとうございました。

《松茂中学校 こかわ》

松茂中学校のこかわです。ボクは、この人権こども塾に今年参加させて頂きました。これから人権学習を学んだって思いながら入塾しました。皆さんは人権学習について、どんなイメージを持っていますか？「難しそう」とか「自分はあまり関係なさそうだな」って思っている人が、多いだろうかなって思います。ボクも、人権こども塾に入る前はそう思っていました。

でも、こども塾に入ってから、様々な活動を通して、人権活動はそんなに難しいものじゃないとわかりました。なぜならこども塾では、語り合いがメインの学習ですが、語り合いでは、自分の思ったことを自由に言えるっていうところが、ボクには素晴らしいと思えるんです。人権学習は、難しく考えないで、思っていることを自由に言えることが醍醐味だと私は思います。

ボクが人権こども塾で印象的だったのが、四国朝鮮初中級学校に行ったことです。四国朝鮮初中級学校は、愛媛県にある朝鮮学校で、今年は「四国朝鮮初中級学校フェスタ」というイベントに行きました。そこでも、

朝鮮学校の子たちとたくさん交流できて、本当に楽しかったです。ボクは、人権学習とか人権こども塾の良さをみんなに伝えたいので、この場に立っています。ボクは中学3年で、来年はもう高校生なんですけど、高校生でも、学んだことをしっかり活かして、自分の夢を実現できるような人になりたいです。これで終わります。ありがとうございました。

《松茂中学校 げんき》

松茂中学校のげんきです。ボクは人権こども塾に参加して、特に自分の中で変わったことがあります。それは、「人権を語り合う中学生交流集会+24」に参加した時です。2年生からその会に参加して、2年生の時は、他人の話を聞いて、感想を書いて、発表なんてことは微塵も考えてなかったんですけど、3年になって実行委員長という立場になって全体を見ていくと、自分もみんなの語りに返さなきゃいけないなという思いが強く芽生えて、初めて手を挙げて語ることができました。

ボクはその時に、初めて手を挙げて語るという感覚を感じました。いつもは他人の話をずっと聞いているだけで、会が終わった時に、いつも何かモヤモヤが自分の心の中に残っていて、それが嫌で、「次は発表しよう」「次は発表しよう」と思っていましたけど、やっぱり勇気が出ずに発表できませんでした。

ボクが発表しようと思ったのは、お兄ちゃんが大きいと思います。ボクは2年生の時に兄と一緒に「人権を語り合う中学生交流集会」に参加しました。その時に、兄は真っ先に手を挙げて。ボクと兄の共通の友人がいるんですけど、その友人のことを語りました。兄は人前に出ても語れるタイプで、何でも自分の嫌なことは嫌だとストレートに言える性格です。ボクは兄に、少しそういう面では憧れを持っていました。ボクは全然人前に出ても喋れずに黙ってしまって、全く語ることはできません。そして、人にもストレートにものを言うことができない短所があります。ボクはずっとそれが嫌で、ずっと変えたい、変えたいと思っていましたが、全く変わりません。

でも兄が語っていたり、友人が頑張って手を挙げて、自分の人生の悩みとか不安とかを語っている姿を見て、自分もそれに応えなければいけないなと思って、初めて手を挙げました。学校とかの語り合いでも、当てられたら語るだけで、自分から手を挙げたことはありません。その時も、手を挙げて語っている人をずっと見て、それで授業が終わっていました。

でも今考えてみると、その人たちの語りに応える事が、やっぱり人権学習をしている、そして人権こども塾に通っている使命だと思ったので、これからはこういう場でも積極的に語って行って、ボクの少し憧れている兄や、すごく学校の授業とかでも語っている友人とかに追いつけるように頑張って、人権学習に深くのめり込んで、自分の中にある小さな勇気をもっと大きくしていきたいです。ありがとうございました。

《司会・科学技術高校 ちーさん水族館》

一周しましたね。どうでしょう。皆さん。これが人権こども塾の「語る」ということになっています。ここからは時間が少し残っていますので、ボクたちでいろんな話を語り合っていこうと思います。私がお話ししてもいいですか？この子たち、実は一人一人時間配分があるんですよ。でも、子どもたち偉くて、ちゃんと時間配分以内に収めているんですけど、オーバーしているのはボクだけです。

そんな人間が話すんですけど、みんなの話を聞いて、「あ、これは言いたい」と思ったんですけど。話を聞いていて思ったのが、「出会い」という単語なんです。これ凄い大事な言葉で、いろんな出会いがあると思うんです。人と人との出会い。でも、その中に例えば、友達との出会いであったり、自分の知らない考えとの出会いであったり、ボクはすごいそういうのが大好きで、その理由の話をしていくんですけど、皆さん、ちょっと想像してください。

こんな経験がありません？想像するとしたら、「雨が降ってる夜の日の、家の布団の中…」ボーッと考え事をするじゃないですか。ふと、「あの時の自慢、ちょっとないことみたいな、ちょっとやばいこと言っちゃ

やったよな」とか。

また、例えば「あの時の人、めっちゃいい人だった。あの出会い、すごくいい出会いだったのに」とか。それだけじゃないですよ。例えば、自分が命かけて頑張っていることがあったとして、それが他人より劣って見えてしまった時、「めっちゃ悔しい。悔しすぎる」とか。ボクの場合の話をしませう。

ボクは生き物を飼うのが好きで飼っているんですが、そんな中でボクより知識のある子を見たら、毎晩のように、「クソッ」と思って、教科書を開いて読んだり、それとやっぱり生き物を死なせてしまうこともあるんですね。「何で死なせてしまうたんや」と思って、一晩中悩んで寝れないというような日もあるんです。

で、そんな時にボクを助けてくれたのは、絶対出会いなんです。例えば、学校の友達がいるんですが、例えば、ベタ(魚)っていう生き物を死なせてしまったんです。その時に友達が来て、その友達が同じベタ(魚)を飼っていた。その友達が「まあ、仕方ないって。そういうこともあるよ」って言ってくれた。

それは、何の理由付けにもなっていないし、ボクが殺したことに對して許してくれるわけじゃないけど、なんか心が温かくなって。その時に、「ボクは実はな、水族館を造りたくて、生き物を見せたくて、見せたいのに殺してしまって、本当に悔しくって」という話をしたんです。

そしたらその友達は、「俺もさ、生き物好きやけど、知識がないから殺してしまう。辛いなあ。一緒に頑張ろう」。この言葉にボクは前を向くことができたんです。それだけじゃないんです。いろんな考えの違いがある人とかとぶつかったりすることもあります。嫌な思いになったりすることがあります。

雨の日に布団の中で「ワアッ」となる日が年に1～2回あるじゃないですか。その時に、ふと心を軽くしてくれるのは、こういう出会いの場です。いろんな人との出会いと、語り合いなんです。お話。だから今、みんなのお話を聞いて、「ああ、わかる」みたいな、「騒がしい人居るよな」みたいな、どこか思うところがある。それを話し合う。すると、心が軽くなる。それを、私たち人権こども塾の先生である、吉成先生と私が話している時に、ふと言葉に出たのが「集団カウンセリング」っていう言葉なんです。

カウンセリングみたいに、みんなで話していたら心が軽くなる。それって凄くない？ボクはそんな語り合いが大好きで、もっと広げていくべきだと思うんです。自分の話でもいい。好きなことの話をしたらいいんですよ。もちろん水族館だったり、映画、音楽、絵画、何でもいい。自分のちょっとした悩みでもいい。どんな話でもいいから、ふと話してみて、そこで会話が深まって、その連続をボクはすごくいいことだと思うし、ボクと吉成先生は「集団カウンセリングじゃないの」という話をしました。

なので、皆さん、第3部の話になってしまうんですが、「会場みんなでトークオーバー」というのがあります。話しましょう。皆さん。本当に年齢とか立場とか、関係なく語りましょう。いろんな話をしていきましょう。というのが言いたかったんです。

ということで、第1部の時間があと5分あります。誰か話したい子はいないかな？話したくて仕方ない。今、緊張してる。どう？さっきのクラスの騒がしい子がいるっていう話、よくわかるんですよ。

「来年は選挙権を持っているんだらう。お前ら」って思うこともあるんですよ。いろんなことがあるんです。でも、その子にも意外と面白いところがあったりして。良いところがあったりする。そういうところも見えたりしたらなって思います。誰かないですか？じゃあ、いきましょう。

《八万中学校 あすか》

私は、ちーさん水族館さんや、みおさんのように、こども塾で出会った先輩方というのは、みんな自分の将来の夢を嬉々として語れるっていう、本当に楽しそうに「自分はこうなりたいんだ」、「こういうことがあったから」とか、全部に関連することが、「人を幸せにしたい」ということだと思うんですね。

私もこう、ほわほわとした夢はあるんですけど、その夢のことがこの2人のように嬉々として語れるのだろうか。楽しそうに、そういうふうに語れるのだろうかと考えた時に、自分がちょっと幼く感じてしまっ

たというか、年齢的にはもちろん幼いんですけど。私がちーさん水族館先輩と出会ったのも、みお先輩と出会ったのも、お二人が高校1年の時に出会ったんですね。

それで今、私は中学3年なんですけど、あと半年くらいで同じ歳になるんです。あの二人のようにこの半年で変われるんだろうかというのが、すごい不安要素の一つではあるんですけども、ゆっくり自分の夢を見つけていったらいいよっていうふうには、周りの大人とかは言うんですけど、それが焦る心としてあるんですが、お二人としては、どうすればいいんでしょうか。

《司会者 みお》

私の考えなんですけど、自分、そんなに焦らなくてもいいと思います。自分の夢っていうのは、やりたいことであって、まあ、そのふわふわっていう目標でも、何か一つ目標があって、追いかけていたいという思いがあるんだったら、そんな具体的にならなくても、全然、私はいいと思います。

《司会者 ちーさん水族館》

ボクが言いたいのは、たぶん、この二人は楽しいからやっているんです。例えば、自分だったらゲームとか、音楽とか、めっちゃ語れる。それって、楽しいことを追いかけているからできること。もし、ボくらみたいになりたいんだったら、楽しもう。何より、楽しいことですよ。楽しいことを楽しむだけ楽しむ。それが近道だと思います。

それでは、ちょうど時刻が来ましたので、第1部「人権こども塾「自分を語る」学習発表会」を終了とさせていただきます。

では、みんなで立って言おうか。せーの、「ありがとうございました。」

ということで、これで第一部は終了となります。